

⑦ 949-1/2

と、うことなるのかを知らな
い
(第十二章)

において既述)

とはいえ、その経緯の詳細を知ることには出
来ない。

＊

とこころでいつの頃か、志賀島の阿曇氏に

の一族のうちの一部の者達が、

滋賀県高島郡安曇川町

・長野県南安曇郡安曇村

へ移住したという

さて、筑前国志賀島の阿曇郷に地理

的に相当する所、滋賀県高島郡安曇川町

の三尾の里の小さな社へ安閑神社の境内

に、神代文字碑と呼ばれる石がある

る。写真図版へ安閑神社の神代文字碑を参照

●扁平な自然石に、なにやら、文字のような

絵のようなものが刻まれていて、漢字渡来以

前に存在したという神代文字ではなにか

とまちの人々は語り伝えている。『朝日新

聞』昭和五十七年八月十四日付『石の声』な

ぞいし参照

2,960^P-1/10

- ・右頁の上半分に掲載下さい。
- ・線かきできちんとくっきり見えるようにお願いします。



1304 1404 写真図版 525 ^{あんかん} 安閑神社の神代文字 ^{いんたいもい} (三尾里北出地区) ^い 碑

^{あどがわ} 『安曇川町史』 ^{あどがわ} 滋賀県安曇川町役場、昭和59年11月3日発行、202頁参照

1204 (* 神代文字碑の丸みを帯びた方を上、平らな方を下にして設置法例を示す)

右頁下半分の
右側に配置。



はみ出し、腰反一杯
大きく掲載
下さい。

2.960^p-2/10

左右2図の中央に配置

1404ゴ4

第388図 殷代の甲骨文字



60頁 122頁参照
殷代文字の系統を引く文字が、日本の縄文・弥生時代の遺跡から出土する可能性が
『甲骨文の世界』古代殷王朝の構造、白川静、平凡社、1982年10月(11刷)発行

天つき
改行

(欠番 2960^p-3/10)
2,960^p-4/10

2959^p-5/57-8^p

1888^p-1/2 57

1889^p-

■ そういえば、神代文字碑に刻まれた模様は
殷代の文字（1873年）（甲骨文字）に、とことなく似てお

り、
と、殷代の文字の延長線上にあるようにも思
えてくる。（第388頁へ殷代の甲骨文字参照）

■ あるいは、
筑前国粕屋郡阿曇郷（志賀島）を本拠地と

する安曇氏の一族の者が、
筑前国志賀島に地理的に相当すると
ころ、琵琶湖西岸の滋賀県高島郡阿曇川町

へ移り住んだ。（第3図・第4図参照）

● さて、滋賀県の阿曇川町の地に居住した
者達は、扶余系殷民達の字で、
神代文字碑

と呼ばれるものを刻んだ、
というのであろうか。なと想像される。

いうまでもなく定かならないことである。

＊

この

526^p

2203^p

2,960^P - 5/10

2956^P - 1/4

2960^P - 6/10

・つまり「^{わい}敬手文」は、^{わい}倭国の^{れい}靈力^{りやく}を
噴^ふき上^あが^ッ「^{よう}様子^すが^み見^みて^とれ^る」。
近^{きん}畿^ぎ地方^{ちほう}の^{ろくろく}外々^{から}「^{しん}神秘的^{てき}な^{れい}靈^き氣^きが^タ高^{たか}く
・ここに、^{てん}朝鮮半島南部^{なんぶ}地域^{ちいき}、九州・中国・
さ^さ地^ち図^ず、^{まこと}写真^{しん}図^ず版^{ばん} 527^P - 7/10、^{あづみ}近江国^{あづみ}安曇^{あづみ}の^な石^{いし}の^{こう}構^{こう}想^{そう}、^{さん}参^{さん}照^{しやう}
を^{えが}描^{えが}いて^いる^のだ^{らう}と^{おも}わ^れる[。] (第389^P 図^ず 参^{さん}照^{しやう})
(ハ) 太平洋^{たいへいよう} 最^{さい}外^{がい}
(ホ) 和^わ馬^ば台^{だい}国^{こく}の^{みや}都^{みや} (外^{がい}郭^{かく}城^{じやう} およ^び宮^{みやう}城^{じやう})
(ニ) 九州^{きゅうしゅう}の^{あづみ}安曇^{あづみ}・^{あづみ}近江^{あづみ}の^{あづみ}安曇^{あづみ}
(イ) 九州^{きゅうしゅう}・中国^{ちゆうごく}・近^{きん}畿^ぎ地方^{ちほう}
(ロ) 日本^{にっぽん}海^{かい}
(イ) 新^{しん}羅^ら・^{まな}任^{まな}那^ななどの^{てん}朝鮮半島^{てん}南^{なん}端^{たん}城^{じやう}
下^{した}から^の上^{うへ}へ^の北^{きた}から^の南^{なん}の方^{はう}へ^の順^{じゆん}に^タ
■ 察^{さつ}する^{ところ}と^{ころ}「^{あづみ}近江国^{あづみ}安曇^{あづみ}の^な石^{いし}の^{こう}構^{こう}想^{そう}、^{さん}参^{さん}照^{しやう}
か^{なり}似^にて^いる^{よう}な^きが^一つ^くる[。]
ま^と「^{あづみ}近江国^{あづみ}安曇^{あづみ}の^な石^{いし}の^{こう}構^{こう}想^{そう}、^{さん}参^{さん}照^{しやう}
526^P へ^の近^{きん}江^{ぎやう}国^{こく}安^{あづみ}曇^{あづみ}の^な石^{いし}の^{こう}構^{こう}想^{そう}、^{さん}参^{さん}照^{しやう}
の^う上^{うへ}を^ひつ^くり^{かえ}て^た据^すえ^お置^おいた^{まこと}写真^{しん}図^ず版^{ばん} 525^P へ^の神^{しん}代^{だい}文^{もん}字^じ碑^ひ」
■ 一^いか^いな^なから、^{まこと}写真^{しん}図^ず版^{ばん} 525^P へ^の神^{しん}代^{だい}文^{もん}字^じ碑^ひ」

2960^P - 1/10
(55)

2,960^円-6/10

カラー
・左面の
上半分
に掲載
17P
*対応の
入力用
のメモ。
*文字の
無い
写真
上半分に
載せる。



* 著作権許諾をもらっておいて下さい。

146G 写真図版 526 近江国^{あづみ}安曇^{あどがわ} (現在^い安曇川町) の『なぞ石』

136G 滋賀県高島市教育委員会事務局 文化財課 宮崎雅亮氏撮影。(平成26年5月)

126G 高さ1m_F 幅1.4m の石の表面に、絵とも文字とも判別にくい陰刻がある。

(* 神代文字碑の丸みを帯びた方を下、平らな方を上にて設置した例を示す)

375^円

カー
・前頁の
コピー
分、文
字を入
れ下さ
い。全
ては済
み

・前
上巻分
掲載下
さい

・文
字を入
れ下さ
い。全
ては済
み



※ この頁の写真については、著作権許諾
不要だと思います。

1459 写真図版 527 近江国安曇『なぞ石』の構想(想像図)

12
6
4
・ 近畿・中国・九州地方 および 朝鮮半島南端一帯から、『霊気』が次から次へ立ち昇っている様子を
描いたのではなかろうか。

2,960P - 8/10

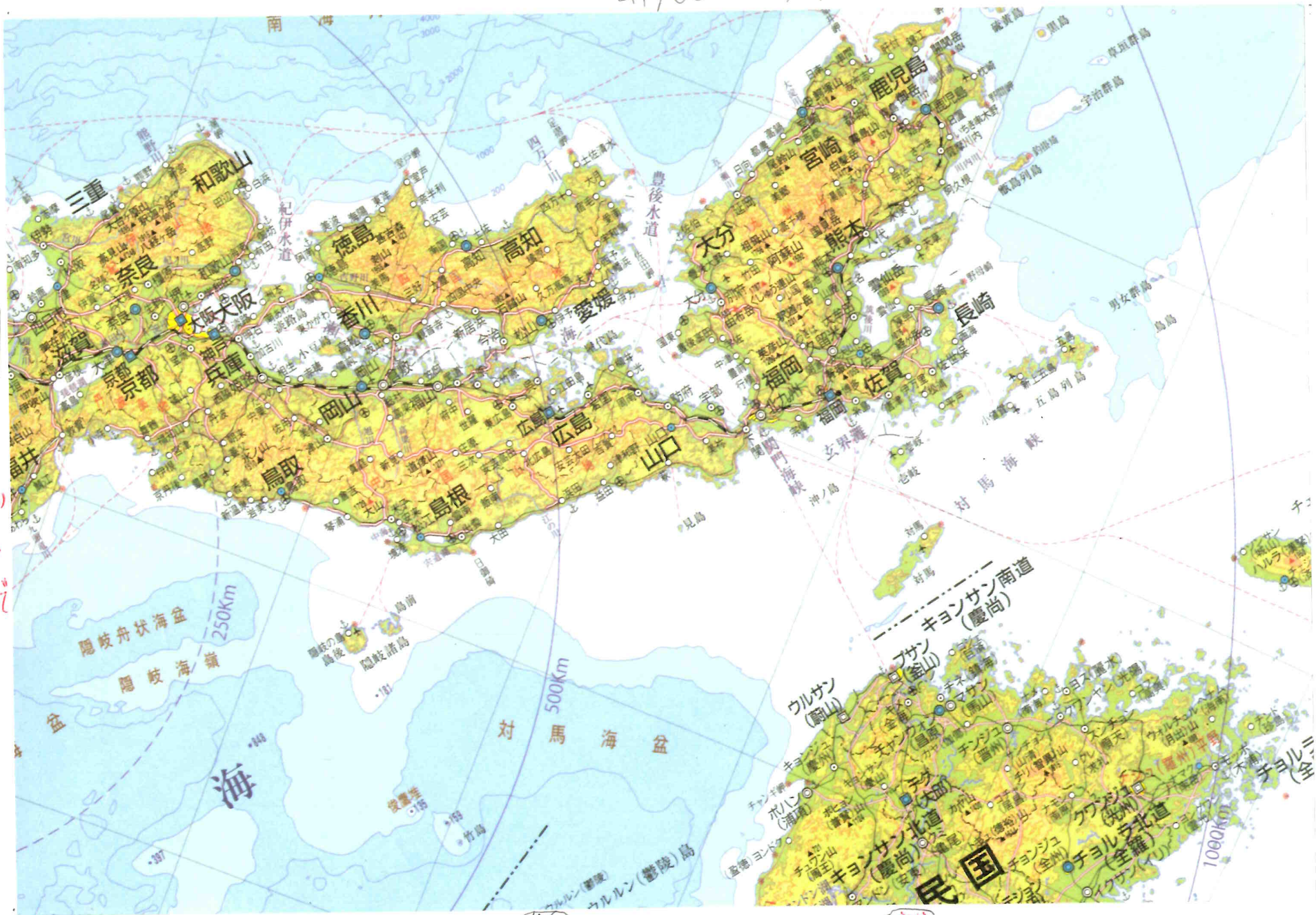
・カラー
・左頁の
下半分
『なぞなぞ』
の下に
掲載
下さい。



・上下は
この通り。

・上下を
間違えな
いで下さい。

・カットは
ないで
下さい。



第389図 環日本海諸国図 (通称「逆さ地図」)

『環日本海・東アジア諸国図』富山県 平成24年7月作成から一部抜粋。

2,960^P - 9/10

④ 2960^P
-5/10
1544

示し
ー
フ
に
る
の
で
あ
ろ
う
、
と
想
到
さ
れ
る

*

一 説 へ

近江国 安曇の口なぞ石に
 関して下 次
 のよ

うな見解がある。

7
(なぞ石表面の陰刻を) 神代文字という

ようになつたのは、不可解なその線描の形か

うに違いな

かしの皮をあけ、皮を和紙で包む。

古墳の一角などではなか
たか。云々

と
川
う
○
ハ
「
安曇川町史
」
安曇川町役場
「
昭

和五十九年十一月三日發行
二〇二二三頁參

肥

なお、滋賀県内の五境について、
安曇

昭和五十九年十一月三日発行の一二

九
夏
一
市
三
負
仁
種
五
球
八
分
水
下
一
子
可

と
あ
い

7 北九州の安曇から下近江国の安曇へ移り

住んだ人々は、
△西の方の地の
繋がり
▽を誇りに

H26(2014)5.31(4)
H30(2018)7.31(4)~8.1(4回)
H31(2019)2.21(木)~2.22(3回)
令和2(2020)3.15(日)~3.16(4回)

2,960^P-10/10
2960^P-1

6月 3/15
3/15

(*)

思「バー」大きな石の表面に「この絵を周知」
けた「
と「
顔料などで着色さへる。
と「
だ「
①「遠方に位置し、東西方向に長い」邪馬台国
②「九州北辺に位置する志賀島に」景行天皇
および「成務天皇の行宮（後の御所）」があっ
たの「
そ「
ある「
③九州の安曇に準じ、近畿の安曇も同じく「
略四角形へ切欠部が二ヶ所ある四角形で「
示した「
と「
いう「
こと「
な「
の「
で「
は「
な「
か「
ろ「
う「
か「
（要検討）

DFハ光159°

おおきそうとうろく
大泉蔵東麓

2948 5/6

DF 157°

この系太いゴ4

2948 1/6
同じ円又

Spil 2669°-2/3

2669° 2967° 2/2

DFハ光158°

DF 157° (363分)

2.961° 1/3

2.959° 3/1
移した

●この石棺はどんなに早くとも五世紀後半、それも早い頃のものとみなければならない

短甲、大刀が彫刻されている。
左から弓、鞍、同心円文

具象形が出現するのは、抽象形よりもずつと遅れるように一般的には解釈されている。とはいえ九州の一部においては意外なほど早い時期に具象形である武器や武具の図が出現した。

具象形

抽象形

月二十五日付、八彩色古墳、畿内空白のナゾ。猪熊兼勝代談、参照。右端の二重の輪を、月に見立てての解釈なのであろう。

*

12F182^P

74 510° 128°

(子真凶版 528) 八千金甲 一号墳

・カラー
 ・ 更の上半分、左右に限度一杯はみ出し、大きく掲載下さい。2,961P 3/3

$\frac{250}{97} = 2.577 \rightarrow 240\% \text{ くらい}$



目下ハ光
 161頁
 にもある

（
 手前の
 石の
 左右を
 カット
 して下さい。

1209 1309 中心入りかけ 中心入りかけ 1409 写真図版 528 熊本県 千金甲 1号墳 石室模型 (5世紀後半) 2953* 辛亥の年 (531年)
 装飾古墳が語るもの 国立歴史民俗博物館 平成7年7月10日発行 9頁参照
 ・ 軸、同心円文などを湾彫りで表わし、赤・青・黄で彩色している。X字形の斜交線は、直弧文を省略したものであろうか。 382P
 大正1038P

能本の装飾古墳 105°
絵有り。 松本雅明

うきほり
浮彫り 198°

能本の装飾古墳
松本雅明
105°
2,962

松本雅明
能本の装飾古墳
104°

装飾古墳の秋窓 日下 201°
能本の装飾古墳 104°
装飾古墳 王利 90°

くま川
能入

利川装飾古墳の秋窓
市町村 66°
41°
2961 2/3

「弁慶ヶ穴古墳」
（板と馬を運ぶ船の壁画）

てはここにありて
特異な具象壁画が描か

れてゐる弁慶ヶ穴古墳を見てみると、

う。

熊本県山鹿市熊入の台地にある六世紀中葉

の弁慶ヶ穴古墳は、高さ約五・七メートル、直径約

十五メートルの円墳で、古墳そのものはあまり大き

くはなく、埴輪、葺石、周壕もないが、内部

には巨大な阿蘇凝灰岩の石材をめぐらして築

いた前室・奥室の二室からなる複室の横

穴式石室がある。（第390図参照）

入口左側壁には、太い両足を踏んぱった人物像

の浮彫があつて、目をひく。石室図版（参照）

前室入口を向つて左の袖石には、四匹の小

さい馬、そのかたわらに大きな馬、手前に鞭

らしいものを振りあげた人物像が赤色で描か

れていて、親馬仔馬の牧歌的風景を想

ひせるものゝあつた。しかし、現在、ほとん

元 1280^P

板 正
馬 正

目下 20^P 253^P の図

王利 90^P
王利 50^P

2,963^P

目下 20^P

能本の装飾は 105^P 14カラ 字から 王利 90^P
王利 50^P 装飾 断面図にイラスト (向いの壁面)

能本の装飾は 104^P

赤外線 写真 24 32
分る 6^P
20^P 11

王利 90^P

*奥室は煤で汚されていて、壁面の有無さえ分からない
肉眼では

と消えてしまった。(第 391 図参照)

前室の四周の側壁には、九面の壁面がある。

前室の右側壁に赤・白・青の顔料で奔放に

描かれた同心円文や連続三角文などの文様も

豪快だが、何よりも目を奪うのは、

前室の他の壁や、奥室に通じる袖石に赤い絵

具をたっぷりと使って描かれている馬や船の

壁面である。中央部は、板状の物を積んだゴンドラ型

の船の下の方に、一頭の馬を乗せた同じような

船が描かれている。(写真図版 530 第 392 図参照)

このような図は一回だけでなく、向かい

合っている左側壁にも板状のものを積む船

二艘と馬を乗せた船一艘がある。(第 390 図参照) また奥室

入口の袖石通路側にも板を積む船と馬を乗せた

船各一艘が向かい合って描かれている。(写真図版 531 第 390 図参照)

内側の右側壁にも馬を乗せた一艘の船の図が

ある。

すなわち、全部で板を積む船が四艘、馬を

乗せた船も四艘と、同数の図が描かれている

更に、前室入口

更に、前室入口

2963-5/7

絵え

2963-6/7

1429

第390

八ヶヶい あな

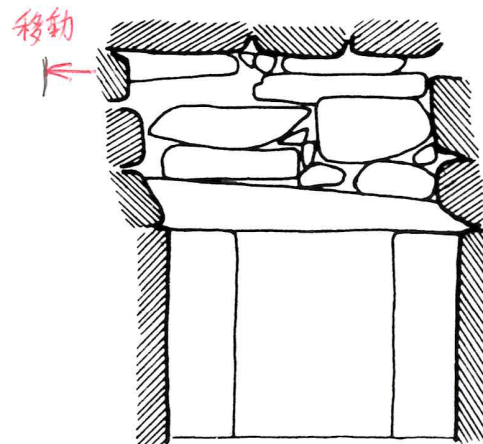
弁慶が穴古墳石室実測図

34 (原口氏 原図)

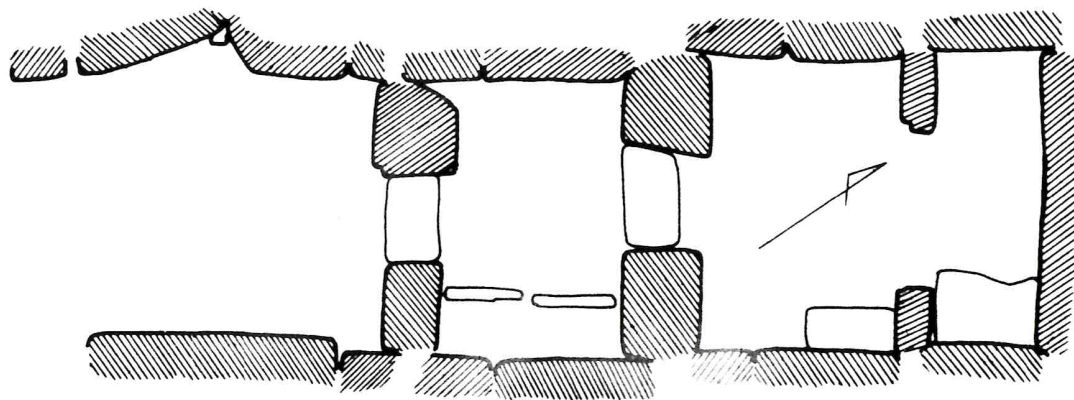
2,963 2/7



34 縦断面図



34 横断面図



34 平面図



右頁上半分。
左右へ限度一杯はみ出させて下刊。



中心ふりわけ
1329

『熊本の装飾古墳』(7) 松本雅明 まつもとまさあき 熊本日日新聞社 昭和51年3月20日発行、105頁(3葉共)

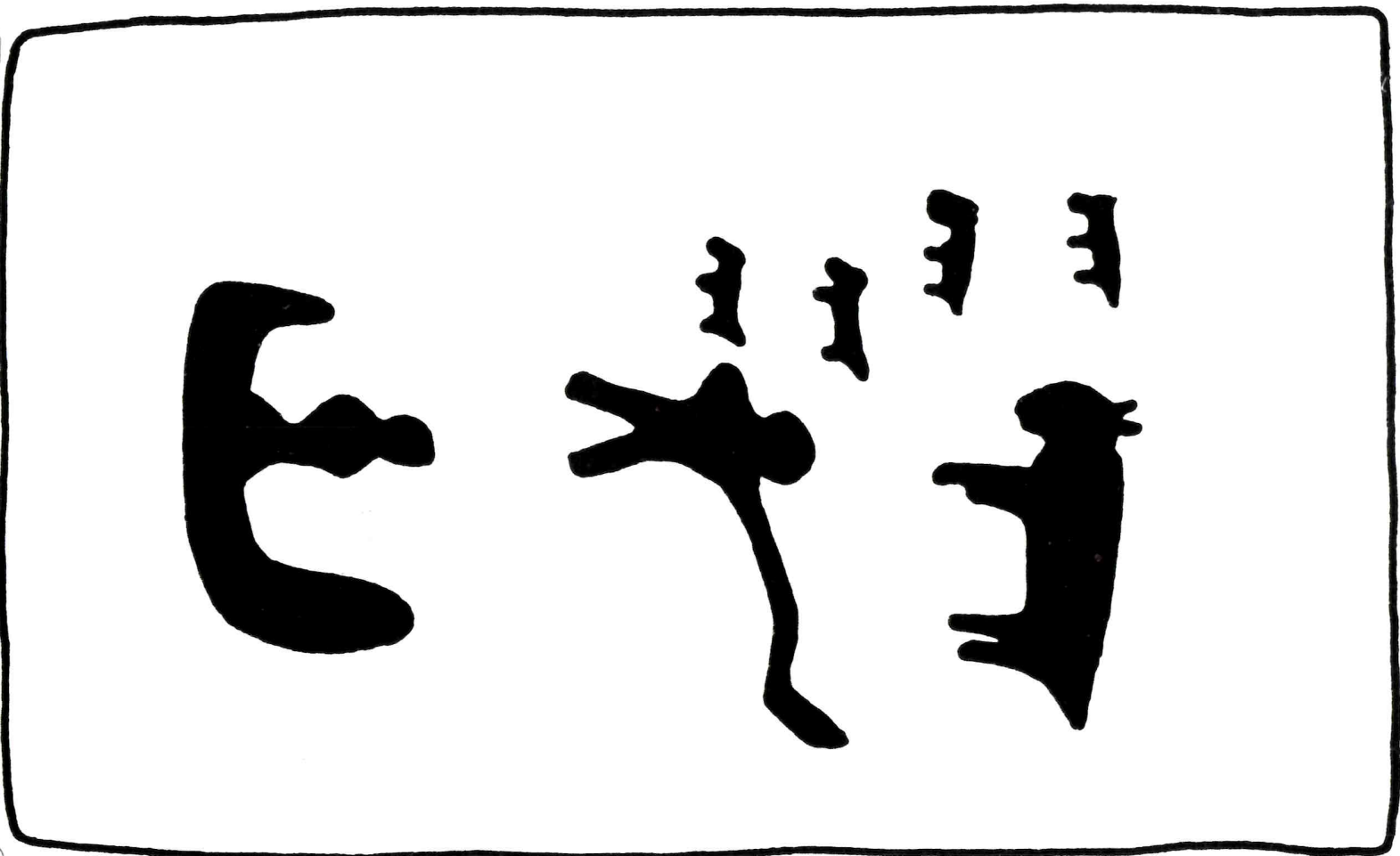
・ 限一ホ上ハミセ
 ・ 右負右下ニ
 揚載下シ。



・ 黒林は、石の
 輪郭です。

* まっすぐな線に
 ないで下シ

2,963^P-B/7



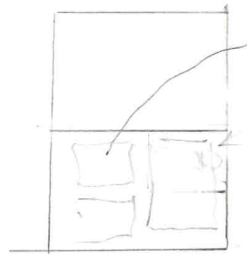
1424
 第391

弁慶が穴古墳羨門左袖石の採色【赤】

コバ (原口氏 原図)

・限一か上・左へおみせ、させて下さい。

・右奥左下本
掲載下さい。



・口幅をななめ状に
して下さい。
・明るくお銀い
します。

2,963P 4/7



写真図版 529 ^{（人）} 余慶ヶ穴古墳入口左側壁の人物像

1404

2963R 5/7

- ・カラー
- ・左頁上半分に、
上端をはみ出させて
掲載下さい。
- ・暗くならないように、
[明るく] お願いします。



装飾古墳の壁画(片)
23頁
「前室右側壁中央」とお
2963R 5/7

130G 半字片

140G

写真図版 530

八咫鏡 八咫鏡

弁慶 穴古墳

前室

前室右側壁中央部壁画

『図説 熊本県の歴史』平野敏也、河出書房新社、1997年11月10日発行、5頁参照

2,963^P-6/7

・カラー

・左頁下半分に
下端をはみだせし
大きく掲載

下さい。



120G

中心よりわ

130G

2939^P-3/3と

196

130G

140G 中心よりわ

第392回
→石

弁慶ヶ穴古墳

前室右側壁中央模写

てまかはっ
日下ハ光氏

おひつ
珍

2956-3/6 (四)
2957-2/6 12~13

『装飾古墳の壁画(展)』佐賀県立博物館 会期昭和48年10月13日~11月4日 23頁参照

は 枢状の物の右上に描かれているのは「鳥」なのだろうか (第8巻) 389

ハ敬

・カラー
・右頁全面に、
大々掲載(7下511)。

ホッ4枚跡44所も、黒くしておいて下さい。

390P

2,963P-9/7



1309 熊本の歴史 平野敏也 河出書房新社 1997年11月10日発行 5頁参照
1409 宇真図版 531 弁慶 千代古墳 左社石通路側の壁画

1209 図説 熊本の歴史 平野敏也 河出書房新社 1997年11月10日発行 5頁参照
馬を乗せた船、同心円文その他多くの文様が赤色で描かれている。6世紀後半。国指定史跡。

熊本の装飾古墳
松本雅明 14頁
前頁 95頁

熊本の装飾古墳 104下段
松本雅明 104頁

2,964^P

北下 294^P
井上下 218^P

熊本の装飾古墳 13

この中で最も有名なものは、ゴンドラ形の船に荷を積み、その上に鳥がとまっている図柄である。(写真図版 530 第 392 図参照)

船に積んだ荷は死者の柩を、とまっている鳥はその死者の靈魂か、今、天翔けようとしてゐる状態を示すのであろう、とされる。

隋書倭国伝の「葬に及んでは屍を船上に置き、云々」の記事や、日本書紀における日本武尊の白鳥三陵の話が思い出される。

という。(「熊本の装飾古墳」松本雅明「熊

本日日新聞社」一〇四・五頁。「装飾古墳の

秘密」日下ハ光「講談社」二〇〇・一頁。

「装飾古墳」玉利勲「平凡社」九〇頁参照)

ところで、後年のことだが、孝徳天皇

大化二年(六四六)三月条には、

「人が死んだ時、殉死したり、殉死させ

たり、あるいは強引に亡人の馬を殉せたり、

等々行なっていた旧来の風習を、皆悉く禁止し

たし

ということが記されている。

階級口伝 73^P

装飾古墳の秘宝

202^Pに類似碑
あり

2.965^P-1/2

「それにも」 2966-3/3 68^P

頁18^P

23,940^P 頁18^P

弁慶ヶ穴古墳に描かれていた船上の馬は、
も「か」だら、
亡人が愛でていた馬。
をあらわしているのかも知れない。
・つまり、その馬は亡き人の柩に從つて瀬
戸内海を船で渡り、主人が葬られたこの墳墓
において殉じられたことを物語っているよう
にも想像される。
■なお、山鹿市の弁慶ヶ穴古墳は、有明海か
ら二十時^時も奥まった内陸部にある。
このような盆地内の古墳に、一体どうした
訣で、船上に柩や馬を乗せている 壁画を描い
たのだろうか。
・弁慶ヶ穴古墳内に葬られた被葬者は、山鹿
地方の一豪族にすぎなかった。——などと
は、とうてい考えにくい 点である。
■しかしながら、
へ近畿地方などの遠隔の地で死んだ貴人の
屍は、数年間の 殯の 後 船上に置かれ 愛馬
と共に天上の国、九州へ運ばれ、そして手

（こ）詳細

喪葬制 1949 年 19 年 予則

牧歌的な馬の絵があるから「船上の…」と記すこと

2.965^p-2/2

厚く葬られた
と解すとき、無理なく首肯し得るように思われる。

もつとも、そのような状況か四度繰返さ
る。この予想して、古墳築造当初に四組
の船上の板および馬の絵を描いたものな
か、それとも、同様の葬儀か四度繰返
され、その度ごとに船上の板および馬の絵
を描き足していったものなのか、などとい
たことについては分らないことである。

*

古墳時代 166
日下ハ光 188
2964

日下ハ光 188
王利 122

ハ光 188
2.966 - 1/2

同時進行
そのどう

小枝々々
86
事実の現象
日下ハ光 189

装飾古墳の消滅

七世紀に入ると、九州地方の装飾古墳から

は、ごくわずかな例外を除いて、円文、三角

文、武器の類がほとんど姿を消す。

また、このような傾向と同時に進行的に、

彩色壁画の色数が次第に減少してゆき、

朱色一色となる。これには消滅してしまふ

部を除いて、七世紀中頃以後は、関東・東北の一

部を除いて、彩色壁画そのものがなくなり、

もっぱら線刻壁画のみとなる。(「装飾古墳

の秘密」日下ハ光、講談社、一八七—一八八

頁参照)

なお、古墳時代の終焉は、孝徳天皇の大化

二年(六四六)の喪葬制によると通常考えら

れてゐる。

2.966^P-2/2

・とはいえ、直接のその効果は畿内とその周
 辺に期待したもので、地方豪族は早急の対象
 にならなかった、とする考えかたがある。
 ・そうしたわけで、九州地方の群小古墳は、
 七、八世紀に、なおも営（イ）なま水続けたの
 だらう、という。（イ）古墳時代（イ）近藤義郎
 河出書房、一六六頁参照

※

2665^P

562.1.22^①
2967^P-1/3
2966^P-1/3

能本町のT史 35P

2669^P

2665^P, 156^P

それに

2965^P 1/2
9行

2969^P 1/2
同文

2661^P 93
2945^P 1/2
2927^P

北九州に築かれ続けた装飾古墳

ともあれ、北九州地方の装飾古墳は、四

世紀後半もしくは五世紀前半頃から七世

紀前半頃までの約二百年間にわたって

絶えることなく作られていった

●それにしても、どうしてこれほどの長期間

はわたり、北九州地方一帯に装飾古墳が作ら

れ続けたのだろうか。

●そしてまた、~~の~~連綿として受け継がれて

いった華麗な装飾古墳について、どのように

理解したらよいのであろうか。

一般的には、先述のように

「装飾古墳は、一地方色のあらわれた

とみられている。(第五十章「装飾古墳」

の項において既述)の概要

だが、はたしてこの見解は正しいのだろうか

うかと疑われてならない。

第四十三章「装飾古墳」の項において述べ

たが、いまいちど検討してみよう

*

リ
石人石馬
か据え置か
水

と は 川 へ、
その最西端に位置する
~~一地方~~ 曰 北

九州地方に造ら水続けてゐる墳墓の方か、

後王や、重臣らの墓よりも豪華であ

美しく彩

色
丈
水
走
り
上
7
11
3
✓

と
い
う
こ
と
で
あ
っ
た
な
ら
ば、
大
和
朝
廷
は
こ
れ
に

と
な
つ
て
い
て
ど
う
対
処
す
る
所
あ
ら
う
か。

■ 心情的存見地に立てば、大和朝廷は決して

黙認する筈がない、と思われれる。

名前に

2.967^{P-3/3}

同文
②672^P 猪熊氏
②669^{P-3/3} 能本氏の氏 森田氏
②671^P 16行 35P ②665^P
②664^P 8行

イタル^P
②926^P
-1/7

■ところか何と、現代人達は、
第四十三章へ装飾古墳の項において述べた

ように、
あまりにも特殊な地方的文化の一つ

装飾古墳は古墳時代における「である」

・ 畿内の古墳は位の高い王族のものなので

都の気位が受けつけなかった文化の中心地には

などという

■とすれば、
装飾古墳が無いらしい。絵は描かなかったが
副葬品が十分あって、わがわが描く必要がなかつ

入畿内の大和朝廷は、北九州の豪族

達の装飾古墳について干渉することなどせず

そんなにも長い間（二百年ほどの長期間）

放任していた

ということになる。

■ じかーながら、

↑↑↑↑↑北九州地方の豪族達が、装

飾古墳を約二百年もの長い期間にわたって

造り続けた

次頁へ行

と解釈するのであれば、本来なら、
へ大和朝廷と対等（もーくは大和朝廷以上の
の實力を持つ者達が結束して北九州一帯に勢力
を結東して約二百年あるいはそれ以上の長期
にわたって大和朝廷を圧迫しつづけた）
と考えなければならぬところであろう。
すなわち、北九州の豪族達が誇る装飾古墳
築造の慣例を止めさせるだけの力を持つてい
ない（？）日極めて微弱な大和朝廷（？）というも
のを想定しなければならぬように思われる。

■また、たとえ装飾古墳が北九州の豪族達の
地方的慣習であつたとしても、
五二八年の筑紫君磐井の滅亡（？）（継体紀二十二年条）
以後、普通に考えらるるならば、北九州一帯は
大和朝廷の厳しい監視下に置かれることとな
つて、それまで盛んであつた装飾壁画
も、衰微するか、消滅するか、そのようなもので
ある。（第一表参照）

■それなのに事実（？）は、
北九州一帯の勢力

王利 15⁹

⑤ 2925^P 14⁹ - 市記義

2,968^P - 2/5

2671^P 16⁹
2664^P 8⁹
2967^P 1/2

528⁹ 前頁
福岡県の工場 61^P
王利 114⁹ (住所) 向を張る 214⁹
王塚

盤井の乱 (五二八) 以後
カに衰えがみられるところか、ますます畿内
の大和朝廷の向うを張るかのよう、煙びや
かな装飾壁画が絢爛と栄える
筑紫国一帯には、王塚・竹原・珍敷塚・五
郎山下等々の名だたる彩色壁画が作られ
その黄金時代を展開してゆくのである
飾古墳に王利勲、平凡社、一四頁参照
とうてい
「装飾壁画は地方的文化の一つである
などというてすませられるものではない
さらにまた、考古学上、非常に興味深い現
象がみられる。
「↑↑↑ 最古の横穴式石室として、福
岡県丸隈山古墳や、佐賀県横田下古墳が著名
である。両古墳は、五世紀前半代に考定され
ていて、横穴式石室の採用では北九州加畿内
よりも約半世紀さかのぼる
という。(「古墳時代」上) 近藤義郎、河出書

写真図版
523
532
533
第
387
393

- ・カラー
- ・右頁全面に大きく掲載下さい。

① 2555-4/7 にあ
王塚古墳模型からひび文
「福田殿の装束は透かしと位下布
ひびきさん

$$2.968^P - 3/5$$


401

222
29547

423,9207
1409

はなぐら 上へつる
おづめ → 福隆県嘉穂郡桂川町 (特別国指定史跡)

1304

1304
写真図版532 福岡県王塚古墳模写 後室
F装飾古墳が語るもの 国立歴史民俗博物館 平成7年7月10日発行 又頁参照

・カラー

・左頁上半分に
大きく掲載
下さい。

(上をはみださ
せて下さい)



地名辞 607^P
657^P
柳井郡

福岡県の歴史
末尾の61頁

1309

中心部よりかけ

1409

写真図版 533

67^P 大分県

竹原古墳

半世紀

後室奥壁装飾

上野

福岡県柳井郡若宮町竹原 (国指定史跡)

657^P

67^P 1209

『福岡県の装飾古墳』熊本県立装飾古墳館、熊本県文化財保護協会、1997年11月1日発行、67・70頁参照、

402^P

2,968^p-5/5

・カラー

・左頁下半分と、

カッ ← 左右を限度一杯はみ出して大きく掲載下さい。



中心よりあけ
 140^g 第393図 五郎山古墳奥壁の壁画 日下八光氏 模写絵
 130^g 吉原やま 57^g 58^g 59^g 60^g 61^g 62^g 63^g 64^g 65^g 66^g 67^g 68^g 69^g 70^g 71^g 72^g 73^g 74^g 75^g 76^g 77^g 78^g 79^g 80^g 81^g 82^g 83^g 84^g 85^g 86^g 87^g 88^g 89^g 90^g 91^g 92^g 93^g 94^g 95^g 96^g 97^g 98^g 99^g 100^g 101^g 102^g 103^g 104^g 105^g 106^g 107^g 108^g 109^g 110^g 111^g 112^g 113^g 114^g 115^g 116^g 117^g 118^g 119^g 120^g 121^g 122^g 123^g 124^g 125^g 126^g 127^g 128^g 129^g 130^g 131^g 132^g 133^g 134^g 135^g 136^g 137^g 138^g 139^g 140^g 141^g 142^g 143^g 144^g 145^g 146^g 147^g 148^g 149^g 150^g 151^g 152^g 153^g 154^g 155^g 156^g 157^g 158^g 159^g 160^g 161^g 162^g 163^g 164^g 165^g 166^g 167^g 168^g 169^g 170^g 171^g 172^g 173^g 174^g 175^g 176^g 177^g 178^g 179^g 180^g 181^g 182^g 183^g 184^g 185^g 186^g 187^g 188^g 189^g 190^g 191^g 192^g 193^g 194^g 195^g 196^g 197^g 198^g 199^g 200^g 201^g 202^g 203^g 204^g 205^g 206^g 207^g 208^g 209^g 210^g 211^g 212^g 213^g 214^g 215^g 216^g 217^g 218^g 219^g 220^g 221^g 222^g 223^g 224^g 225^g 226^g 227^g 228^g 229^g 230^g 231^g 232^g 233^g 234^g 235^g 236^g 237^g 238^g 239^g 240^g 241^g 242^g 243^g 244^g 245^g 246^g 247^g 248^g 249^g 250^g 251^g 252^g 253^g 254^g 255^g 256^g 257^g 258^g 259^g 260^g 261^g 262^g 263^g 264^g 265^g 266^g 267^g 268^g 269^g 270^g 271^g 272^g 273^g 274^g 275^g 276^g 277^g 278^g 279^g 280^g 281^g 282^g 283^g 284^g 285^g 286^g 287^g 288^g 289^g 290^g 291^g 292^g 293^g 294^g 295^g 296^g 297^g 298^g 299^g 300^g 301^g 302^g 303^g 304^g 305^g 306^g 307^g 308^g 309^g 310^g 311^g 312^g 313^g 314^g 315^g 316^g 317^g 318^g 319^g 320^g 321^g 322^g 323^g 324^g 325^g 326^g 327^g 328^g 329^g 330^g 331^g 332^g 333^g 334^g 335^g 336^g 337^g 338^g 339^g 340^g 341^g 342^g 343^g 344^g 345^g 346^g 347^g 348^g 349^g 350^g 351^g 352^g 353^g 354^g 355^g 356^g 357^g 358^g 359^g 360^g 361^g 362^g 363^g 364^g 365^g 366^g 367^g 368^g 369^g 370^g 371^g 372^g 373^g 374^g 375^g 376^g 377^g 378^g 379^g 380^g 381^g 382^g 383^g 384^g 385^g 386^g 387^g 388^g 389^g 390^g 391^g 392^g 393^g 394^g 395^g 396^g 397^g 398^g 399^g 400^g 401^g 402^g 403^g 404^g 405^g 406^g 407^g 408^g 409^g 410^g 411^g 412^g 413^g 414^g 415^g 416^g 417^g 418^g 419^g 420^g 421^g 422^g 423^g 424^g 425^g 426^g 427^g 428^g 429^g 430^g 431^g 432^g 433^g 434^g 435^g 436^g 437^g 438^g 439^g 440^g 441^g 442^g 443^g 444^g 445^g 446^g 447^g 448^g 449^g 450^g 451^g 452^g 453^g 454^g 455^g 456^g 457^g 458^g 459^g 460^g 461^g 462^g 463^g 464^g 465^g 466^g 467^g 468^g 469^g 470^g 471^g 472^g 473^g 474^g 475^g 476^g 477^g 478^g 479^g 480^g 481^g 482^g 483^g 484^g 485^g 486^g 487^g 488^g 489^g 490^g 491^g 492^g 493^g 494^g 495^g 496^g 497^g 498^g 499^g 500^g 501^g 502^g 503^g 504^g 505^g 506^g 507^g 508^g 509^g 510^g 511^g 512^g 513^g 514^g 515^g 516^g 517^g 518^g 519^g 520^g 521^g 522^g 523^g 524^g 525^g 526^g 527^g 528^g 529^g 530^g 531^g 532^g 533^g 534^g 535^g 536^g 537^g 538^g 539^g 540^g 541^g 542^g 543^g 544^g 545^g 546^g 547^g 548^g 549^g 550^g 551^g 552^g 553^g 554^g 555^g 556^g 557^g 558^g 559^g 560^g 561^g 562^g 563^g 564^g 565^g 566^g 567^g 568^g 569^g 570^g 571^g 572^g 573^g 574^g 575^g 576^g 577^g 578^g 579^g 580^g 581^g 582^g 583^g 584^g 585^g 586^g 587^g 588^g 589^g 590^g 591^g 592^g 593^g 594^g 595^g 596^g 597^g 598^g 599^g 600^g 601^g 602^g 603^g 604^g 605^g 606^g 607^g 608^g 609^g 610^g 611^g 612^g 613^g 614^g 615^g 616^g 617^g 618^g 619^g 620^g 621^g 622^g 623^g 624^g 625^g 626^g 627^g 628^g 629^g 630^g 631^g 632^g 633^g 634^g 635^g 636^g 637^g 638^g 639^g 640^g 641^g 642^g 643^g 644^g 645^g 646^g 647^g 648^g 649^g 650^g 651^g 652^g 653^g 654^g 655^g 656^g 657^g 658^g 659^g 660^g 661^g 662^g 663^g 664^g 665^g 666^g 667^g 668^g 669^g 670^g 671^g 672^g 673^g 674^g 675^g 676^g 677^g 678^g 679^g 680^g 681^g 682^g 683^g 684^g 685^g 686^g 687^g 688^g 689^g 690^g 691^g 692^g 693^g 694^g 695^g 696^g 697^g 698^g 699^g 700^g 701^g 702^g 703^g 704^g 705^g 706^g 707^g 708^g 709^g 710^g 711^g 712^g 713^g 714^g 715^g 716^g 717^g 718^g 719^g 720^g 721^g 722^g 723^g 724^g 725^g 726^g 727^g 728^g 729^g 730^g 731^g 732^g 733^g 734^g 735^g 736^g 737^g 738^g 739^g 740^g 741^g 742^g 743^g 744^g 745^g 746^g 747^g 748^g 749^g 750^g 751^g 752^g 753^g 754^g 755^g 756^g 757^g 758^g 759^g 760^g 761^g 762^g 763^g 764^g 765^g 766^g 767^g 768^g 769^g 770^g 771^g 772^g 773^g 774^g 775^g 776^g 777^g 778^g 779^g 780^g 781^g 782^g 783^g 784^g 785^g 786^g 787^g 788^g 789^g 790^g 791^g 792^g 793^g 794^g 795^g 796^g 797^g 798^g 799^g 800^g 801^g 802^g 803^g 804^g 805^g 806^g 807^g 808^g 809^g 810^g 811^g 812^g 813^g 814^g 815^g 816^g 817^g 818^g 819^g 820^g 821^g 822^g 823^g 824^g 825^g 826^g 827^g 828^g 829^g 830^g 831^g 832^g 833^g 834^g 835^g 836^g 837^g 838^g 839^g 840^g 841^g 842^g 843^g 844^g 845^g 846^g 847^g 848^g 849^g 850^g 851^g 852^g 853^g 854^g 855^g 856^g 857^g 858^g 859^g 860^g 861^g 862^g 863^g 864^g 865^g 866^g 867^g 868^g 869^g 870^g 871^g 872^g 873^g 874^g 875^g 876^g 877^g 878^g 879^g 880^g 881^g 882^g 883^g 884^g 885^g 886^g 887^g 888^g 889^g 890^g 891^g 892^g 893^g 894^g 895^g 896^g 897^g 898^g 899^g 900^g 901^g 902^g 903^g 904^g 905^g 906^g 907^g 908^g 909^g 910^g 911^g 912^g 913^g 914^g 915^g 916^g 917^g 918^g 919^g 920^g 921^g 922^g 923^g 924^g 925^g 926^g 927^g 928^g 929^g 930^g 931^g 932^g 933^g 934^g 935^g 936^g 937^g 938^g 939^g 940^g 941^g 942^g 943^g 944^g 945^g 946^g 947^g 948^g 949^g 950^g 951^g 952^g 953^g 954^g 955^g 956^g 957^g 958^g 959^g 960^g 961^g 962^g 963^g 964^g 965^g 966^g 967^g 968^g 969^g 970^g 971^g 972^g 973^g 974^g 975^g 976^g 977^g 978^g 979^g 980^g 981^g 982^g 983^g 984^g 985^g 986^g 987^g 988^g 989^g 990^g 991^g 992^g 993^g 994^g 995^g 996^g 997^g 998^g 999^g 1000^g

④2925^p

④2967^p 5-65^p
~~2667^p~~ 2.969^p - 1/2

房、一四三頁。「裝飾古墳」玉利勲、平凡社
一五頁参照

■ようするに

へ横穴式石室は、まず北九州に出現し、
約半世紀遅れて畿内にあらわれた

というのである。(第五十章の冒頭に於て既述)

■とすれば

■畿内の倭王や重臣達は、北九州で造られ
ている横穴式石室を、約半世紀遅れて

模倣した。

■しかしながら、気位の高い倭王や重臣をは
じめとする畿内の人々は、

一々北九州で盛行
している裝飾古墳を採掘するという点についで

けは、全く受けつけなかった、

ということになる。

■両者の間に一貫性がなく、何とも納得し

にくい

※それと

■畿内の横穴式石室は、北九州の

横穴式石室を模倣したものでない

と云えるのだろうか

*

